

豊かで 伸びやかに そしてたくましく



スカウト みやぎ

NO. 4

発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟
発行日 平成16年6月30日発行

平成16年度宮城県連盟年次総会

仙台市広瀬文化センターで



5月30日仙台市広瀬文化センターを会場に宮城県連盟の年次総会が千田理事長の発案により「世界スカウト創始100周年記念のオープニングセレモニー」と一緒に開催されました。

総会は浅野連盟長代理の郷家副連盟長の式辞に続き、日本連盟より若山事務局長から日連の運営方針や現代の子ども達の楽しみとスカウト活動の問題点把握など挨拶があつて開始されました。

仙台11団の副団委員長菊池彬夫氏を議長

に選任し議案が審議されました。

加盟スカウト減少問題については宮城県連盟各団共通の憂慮すべき重要事項として、理事長やコミッショナーの全団訪問が要望されました。他に決算報告並びに予算案については熱心に質疑が討議され若干の時間延長がありました。菊池議長のスムーズな進行によって、本総会の開催に際し、会場の準備並びに運営にご尽力いただいた仙台地区の皆様には感謝の念を抱き、無事に終了する事ができました。

世界スカウト運動創始100周年記念

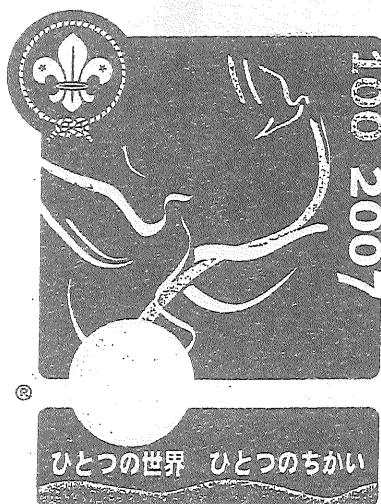
『スカウトの集い』に400名参加

ベーデンパウエル卿がボーイスカウト運動を創始してから2007年で100年を迎えることになります。

世界スカウト会議において2007年までの3ケ年を『世界スカウト運動100周年』として、世界スカウト委員会は『2007: One World One Promise』をテーマに掲げ、世界各国で多くの催しを計画されることとなりました。

日本連盟においてもテーマを『2007: 世界はひとつ ちかいはひとつ』と定め3ケ年の記念事業の計画が打ち出されました。

宮城県連盟では100周年記念行事に『スカウトの集い』と銘打って年次総会後のプログラムとして開催しました。



第1部のオープニングセレモニーに始まり第2部年次表彰、第3部記念講演、第4部スカウト発表の構成で開催されました。

オープニングセレモニーは各隊スカウトの持つ隊旗で埋めら

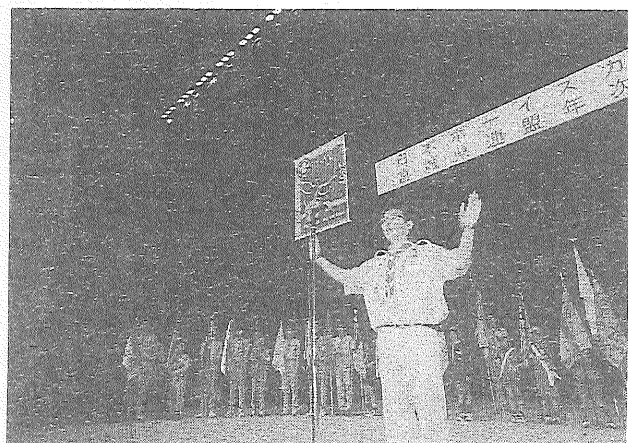
れたステージで、塩竈1団村上義光君と泉1団岡本孝次郎君の司会で始められ、100周年記念事業開始宣言など全てスカウト達によって進められ、参加者全員で元気に『BPSピリット』を合唱して第2部へ入りました。

年次表彰では、日本連盟の功労章の伝達、



県連盟特別有効章並びに有効章が14名の指導者に授与され、続いて富士章、菊章スカウトへの褒状が授与されました。

第3部では日本連盟の杉原 正理事による『ボーイスカウト運動が期待されるために』という演題で、これからのスカウティングについて考えなければならない有意義な記念



講演がありました。

最終の第4部では日米国際スカウトフォーラム、日韓スカウトフォーラム、北海道・東北ブロックスカウトフォーラムなどに参加したベンチャースカウト達によるスカウトの発表が行われ『スカウトの集い』を終了しました。

近づく夏休み

東部地区ラウンドテーブルで安全対策を討議

東部地区広報委員長

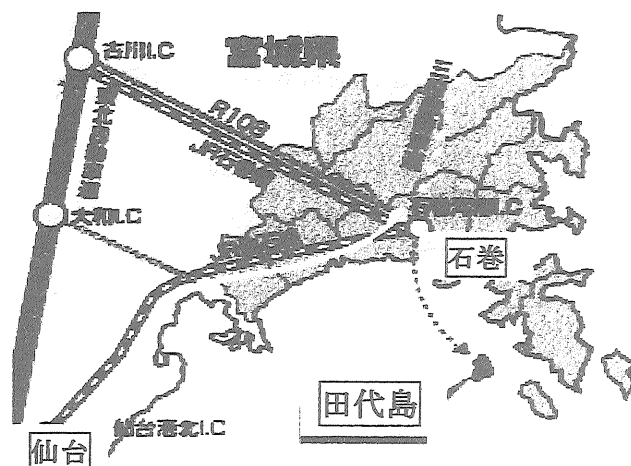
大泉雅弘

7月から8月の夏休みが近づき、海へ山へと大自然に向き合う好季節が到来します。

東部地区の各団では7月、8月の月間プログラムを持ち寄り「夏の安全対策」をテーマに6月16日（水）塩竈公民館において指導者が集まり東部地区第一回ラウンドテーブルを開催しました。

今年は多賀城2団と泉2団がそれぞれ石巻「田代島」へ海のプログラムを主体とした夏季キャンプを企画しています。

特に泉2団は7月22日～25日までの3泊4日に亘る為、安全対策については人命に直結する海、また離島での活動を視野に入れた念入りの計画が重要なポイントとなり、関係者は具体的な項目を逐一挙げて真剣に話し



合をしました。終わりにゲームを研修して9時に散会しました。

次回第2回ラウンドテーブルは「野営法と営火」をテーマに7月10日（土）塩竈「願成寺」で開催します。

第9回石巻地区キャンポリー計画！

石巻地区キャンポリー実行委員長 松本公一

2004年8月7日～10日の3泊4日、志津川にある神割崎キャンプ場において

「第9回石巻地区キャンポリー

BIG 04 SUMMER CAMP」を計画。

今大会は同じ石巻地区で活動をしているスカウトが野外活動を通して交流を図り、各々の進歩向上とスカウト・リーダー共に地区内の和・意思・協力体制をより強固にすることを目的としています。

運営は、各団のボーイ隊グリーンバーと各団指導者によって組織され、大会名・開催場所に始まり、プログラム・班編制に至るまでグリーンバー主体の会議により決定されている。

スカウティングの原点「スカウトがスカウ



トによる、スカウトのための・・・」の実践であります。

《2004夏＝心に残る良い思い出を・・・》

菊スカウトに栄光あれ！

仙台地区広報委員長 柿沼高雄

5月30日午後5時より、宮城県連盟年次総会終了後の仙台市広瀬市民センター2階の和室で仙台地区協議会に於ける菊スカウトの面接がありました。

その結果、名取第1団の目黒義彦、高橋 涼、桜井義孝、大沼 幹の4君が晴れて菊スカウトとして認証されました。

4名は定刻5分前に緊張した面持ちで「失礼します」の声で入室、直ぐに所定の作文に取りかかりました。

控室では高橋隊長とスカウトのお母さんたちが心配そうな顔で待っていました。3人の面接委員が待ち受ける会場にスカウトとお母さんが一緒に入室、学校生活や部活への取組み、家庭生活状況、スカウト活動の感想、宗教などに関する質問に対し、各自素晴らしい応答をしていました。同席のお母さん方も子供の長所や短所を明確に把握されておりました。

スカウト達は日本ジャンボリーに宮城県連盟派遣団の班長として参加して統率力を充分に発揮し又、柔道やテニス等の部活においても部員から信組される部長として活躍するなど、全員は協調の精神が大切だと話していました。

作文の内容については、小山仙台地区コミッショナーから「素晴らしく書けている。特に自分の信念を強く持っている」とお褒めの言葉があり、井藤地区委員長からは「思いやり・心がけ」の二つの言葉を大切に、とのお祝いと励ましの言葉が贈られました。

又、面接に携わった地区役員の方々が心を



込めて書いた色紙が全員に手渡されました。

菊スカウト章の価値観をスカウトに理解させ、取得にまで漕ぎつけた隊長の指導力と熱意に敬意を表し、このたび菊スカウトを取得した4名のスカウト達には富士スカウト章に向けての更なる努力を期待するものであります。

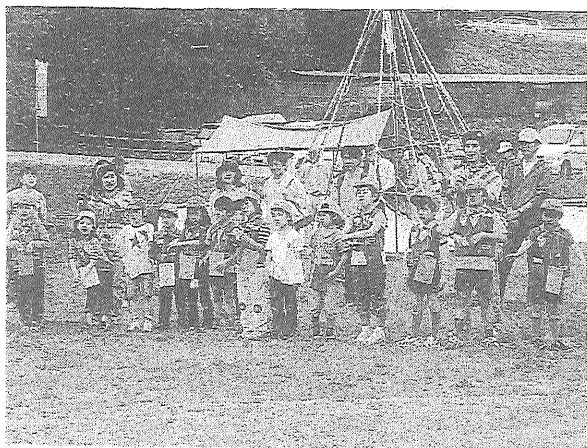
仙 台 地 区 ビーバーまつり・カブラリー

4月29日（土）仙台市泉区にある水の森公園及びキャンプ場でビーバーまつり・カブラリーが、学校5日制の実施に伴い、休日の子供達がスカウト達と楽しく交流を図ることによって、野外活動を体験できる受け皿となるように又、その子供達の保護者に対するスカウト活動のPRも兼ねて、11ヶ団のビーバー・カブスカウト、指導者、役員、保護者、一般参加の子供達など350名が参加して行われました。

ビーバー隊は『つくってあそぼう』をテーマに、缶バッチ、ブーメラン、スライム、竹のコマ、吹き矢の5つのコーナーを回って、自分で作った玩具で遊びました。

スライムでは材料をいれる量が少なかったり、多過ぎたり、柔らかかったり、硬かったりして大変な騒ぎでした。

ブーメランコーナーでは、地区で作った3枚羽根型ブーメランに一人一人好きなように色を塗って何度も何度も飛ばしていました。



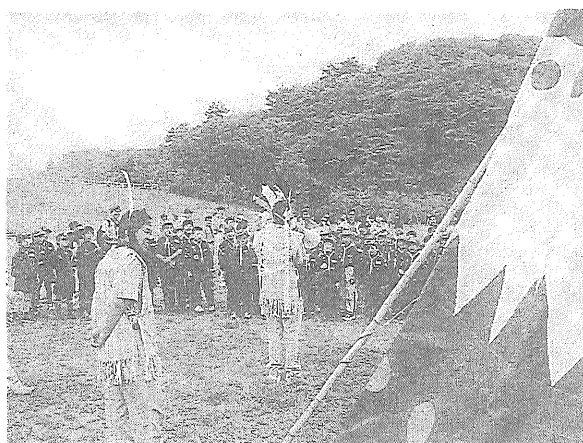
すぐに地面に落ちるブーメラン、長く飛んでいるもの、落ちてくるブーメランに向かって走っていく子供達やスカウトたちの嬉しそうな笑顔が印象的でした。特にビーバー達はとても元気があって良かったとリーダー達も喜んでいました。

カブ隊はハイキングをしました。受付順にコースの地図とチェックシートを受け取り、途中①コンパス、②ソング、③手旗、④蜘蛛の巣脱出作戦、⑤追跡サイン、⑥ロープ結索などのリーダー達が知恵を絞ったユニークな課題が待ち構える6ヶ所のポイントを経てのゴール目指してスタート。

各団からのリーダーはポイントでの奉仕や写真撮影のためスカウトの列の後ろをついて行ったりした団もありました。ソングのポイントでは声が小さく、「もっと大きな声を出して」という担当リーダーなどなど。

ハイキングの途中で、緑多き自然の中で楽しい昼食をとりました。時々小雨も降りましたが閉会式の時には青空に戻り、表彰式では41団のカブ隊が優勝して井藤地区委員長から賞状と賞品が授与され参加者全員から弥栄を贈られて無事終了いたしました。

さらに、当日一般参加した子供達10名中7名が入団したことは本当に有意義で楽しい一日でした



仙台41団活動の一ページ

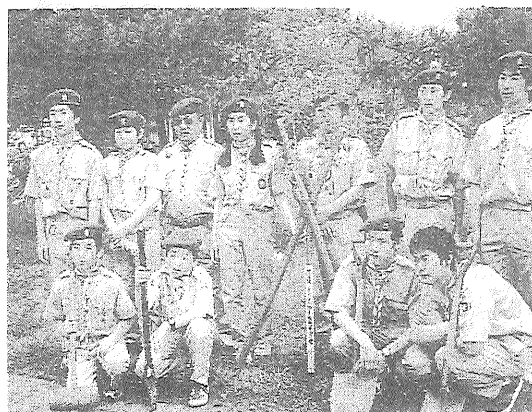
仙台41団団委員長 谷口継義

みどり野に光る若葉の季節となりスカウト活動にとって最上の時期です。四月の緑化運動の還付金を基にして現在迄に19校の小学校に色々の木の植樹をさせてもらっています。皆さんもすでに『仙台市政だより』4月号の表紙に掲載されましたので御承知とは存じますが、遠見塚小学校の校門から校舎までの、100mの桜並木です。染井吉野のみごとな桜のトンネル。今では遠見塚古墳と相俟って名所となりました。

ここには、かつて先輩スカウト達が植えた桜も28年の歳月にみごとに花を咲かせていますが、その続きに今回の緑化で新たに2本の吉野桜を植樹する事になり、ビーバー隊、

カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊が団行事に奉仕をしてくれました。

春夏秋冬一年を通じて思い出に残る活動を与えてくれる古墳公園の一角で仙台41団の活動は展開されています。



古川第1団ビーバー・カブ合同舎営 松山町海洋センターで

6月12～13日の2日間松山町の飛翔館を会場にして古川第1団ビーバー・カブ隊の合同舎営が行われました。

古川第1団の育成会では、ボーイスカウト活動の活性化のためには、ビーバー隊・カブ隊の活動の支援を強め、団全体に波及させていくことが重要と考え活動してきました。ビーバー・カブの活動には、保護者のお手伝いが必要となります。

併しながら、現実には決まった保護者のみのお手伝いとなっている状態です。

そのため保護者・スカウトと一緒に楽しめる企画として陶芸家の熊谷正己先生をお迎えし、親子陶芸教室を行いました。普段の隊集会では子供の送り迎えだけの保護者も参加しスカウト、保護者併せて60名が参加しました。また、陶芸教室後に参加保護者に今後の

隊活動に積極的に協力していただくようお願いすることができました。



ビーバー初めて電車の切符を買う

白石第1団 ビーバー隊
いのうえ まさゆきくんのおとうさん

今日は仙台市の宇宙館へ見学にいきました。宇宙館まではJR東北本線と仙台市営地下鉄を乗り継いで行きました。今までに電車に乗ったことのない隊員、又電車に乗ったことはあっても、乗車券を購入したことが無い隊員も、駅で乗車券を購入するところから初めて体験し、電車に乗るための手続きを学習することができました。また、車内においても、「車内では静かにする」といった乗車のマナーについて、隊長・副長にご指導頂きました。

宇宙館では、プラネタリウムで星座の説明を聞いたり、色々な展示を体験・体感して科学に対する興味を持つことができたと思います。又、館内では、他の見学者も来ており、展示コーナーでは順番に並んで、見学することや、決められた時刻に集合することなど、見学のマナーや団体行動のルールについて習



得できたことと思います。今回の見学では、以上のような「初めて」を多く体験し、社会における隊員たちの世界が又1つ広がったことと思います。また、今回の見学を計画、そして安全に推進していただいた隊長・副長をはじめとする関係者の皆様に感謝致しております。

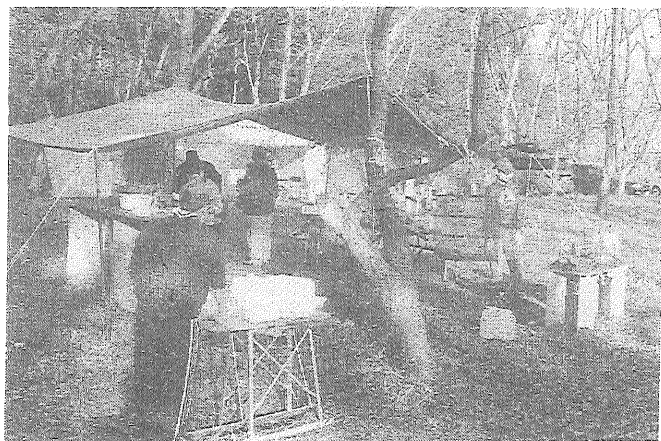
団キャンプ場ただいま開拓中！

仙台28団ボーイ隊副長 乙訓敬仁

仙台28団では、現在団キャンプ場を建設しています。このキャンプ場は、栗とスギ・マツ林に囲まれており、2年前から約4回ほど開拓のためにキャンプを行いました。

写真は、5月にボーイ隊とともに行ったキャンプ中の一コマです。

栗林を切り開き周辺の笹などを刈り込んで、いくつかテントが張れるようになったものの、最初は大変でした。秋には、たくさん栗が採れるので楽しみではあるのですが、テントを張るとなると、栗のイガを拾うのが大変です。今は簡易トイレも設置し、スギ林の中にもテントを張れるよう開拓しましたが、給水の問題などもあり、実際に団キャンプをするまでには、まだまだかかりそうです。



老人介護施設での体験

名取1団ボーイ隊隊長 高橋 篤

当団ボーイ隊では、2ヶ月に1回程度、班単位の小人数で老人介護施設を訪問し、おじいちゃん、おばあちゃん達とお喋りしたり、自分達で考えたゲームで遊ぶ等、楽しく活動しています。



この活動は3年前から行っていますが、初めて訪問したときには話すらできなかったスカウトも、回を重ねることで、笑顔で会話ができるようになりました。また、目や耳、手足が不自由などといった一人一人の体の状態を考えて対応できるようにもなりました。

自分たちで考えたゲームも、みんなに楽しんでもらえたか？他の班よりも楽しいゲームはないか？等と反省し、次の活動に生かしています。この活動を通じ、スカウト達の成長がハッキリ感じることができます。

ナイト ハイキングで新入隊員を歓迎

村田第1団 BS隊長 高橋徳夫

去る5月15日に村田第1団では、新たに加わったカブ隊員の歓迎を兼ねて、ボーイ隊と合同で、ささやかなナイト ハイキングを行いました。町の中心に位置する村田中央公民館から北東へ約3.5キロにある「民話の里」として有名な姥ヶ懐地区公民館まで楽しく歩くことができました。

初めて参加した隊員は、最初の段階では騒いでいましたが、途中明りがないところに差しかかると、自然の内に集団化してきました。やはり怖いのだなと思いましたが、真っ暗と

なる自然の力に隊長としても嬉しくなっていました。蛙の鳴き声、犬の遠吠え、シーンとした静けさがいろいろな音を隊員に教えてくれます。

ちょうど、足もそろそろだるくなる頃に目的地に到着、その夜は公民館に舎営し、また楽しいプログラムを展開することができました。

今回は仲間作りに主眼を置き、目的を十二分に達成できたと思っております。

オーバナイト - 伊達の隠密の巻 -

石巻6団 ボーイ隊長 佐藤早苗

去る4月28日～29日恒例のオーバナイトを行った。夜7時に石巻駅に集まったスカウトたちは「伊達の隠密諸君・・・」という密書を手に入れ、不安な面持ちで石巻駅を出発した。

前谷地駅で降り、そこからハイクスタート！！途中、様々な課題のある関所を通りゴールは御岳道駅。

足の痛みに泣きそうになりながら歩くスカウト。疲れて途中眠りながら歩くスカウト。

それぞれ大変だったが、今年も一人の脱落者もなく25キロを歩き通した。

ゴールしたスカウトの顔は眠そうだったが、やり遂げた自信で輝いていた。



友団の友達といっしょ

古川第1団 育成会副会長 谷本富男

6月27日10時から古川第1団本部八坂神社の境内でビーバー隊・カブ隊の合同隊集会在友団の迫1団ビーバーとカブ隊をお迎えして行われました。

3つの組に分かれ組長を中心に各自持参の空き缶で缶ボックリを作りました。

出来上がった後に乗る練習をしましたが乗る前に壊れたり、最初はなかなか上手に乗れず隊長や大人の手助けによってコツをつかんで乗れるようになるまでが大変でした。

その後4、5人で缶ボックリ競走をしました。途中で缶から足を外したり、紐が切れたり、缶がつぶれてしまい乗れなくなったり、やっと歩けたり、駆け足で走ったりと色々な表情を見ることができました。

ビーバー隊のおやつの時間となって、カブ



隊は更にノコギリで小枝を5センチ程に切って名前を書く所を平らに削り、小枝の両端をタコ糸で縛って完成です。みんな家に持ち帰って、何処に掛けているのでしょうか？

最後に迫隊とお別れをして、この日の隊会は終了となりました。

編集後記

第4号の編集に際し、今回も沢山の原稿をお寄せ戴き感謝申し上げます。世界スカウト運動創始100周年記念事業開始が宣言されましたが、ボーイスカウトは何をする団体なのかを広報委員会は地域の皆様方にもご理解をしていただくよう努めて参ります。ご意見ご助言をお願い申し上げます。

- 発行 日本ボーイスカウト 宮城県連盟
- 編集 宮城県連盟広報委員会
- 〒981-0915 仙台市青葉区通町1-6-9 宮城県通町分庁舎内
- TEL/FAX 022-234-2359